

第2回須坂市障害福祉施策推進懇話会 会議録

- | | | | | |
|---|------|---------------------|--------------|----|
| 1 | 開閉日時 | 2023 年 12 月 19 日（火） | 午前 10 時 | 開会 |
| | | | 午前 11 時 45 分 | 閉会 |

- 2 会議の場所 須坂市役所東庁舎3階第4委員会室

3 會議事項

- (1) 計画策定のためのアンケート調査について
- (2) 次期計画の目標値等について
- (3) 意見交換
- (4) 今後の予定について
- (5) その他

4 会議の概要

○ 福祉課長

皆さんおはようございます。

それでは定刻になりましたので、ただいまから会議を開会いたします。

本日は御多用の中、第2回須坂市障害福祉施策推進懇話会に御出席いただきましてありがとうございます。

◆配付資料の確認

◆欠席委員の報告

本日の会議の内容、御意見につきましては、後日、市のホームページに掲載いたしますので、皆様の御了承をよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿いまして進めさせていただきます。会議に先立ちまして健康福祉部長より御挨拶を申し上げます。

○ 健康福祉部長

皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中、またお寒い中、御出席を賜りまして、本当にありがとうございます。また日頃から地域福祉、障がい者福祉の推進に御理解と御協力を賜り重ねて感謝申し上げます。

今年は、早期に流行が始まっておりましたインフルエンザですが、須高地域でも、幼稚園保育園、小中学校の学級閉鎖などの状況が、現在もまだ多く見られています。施設の職員の皆様にも、感染対策に御苦勞をいただいていると拝察いたします。ありがとうございます。

さて、本年度は、第６期須坂市障がい福祉計画、第２期障がい児福祉計画の更新年度にあたり、見直し・策定の作業を進めており、前回１０月には第１回の懇話会で皆様の御意見をいただいたところでございます。本日は、国の基本指針や、これまでの取組実績なども踏まえまして、計画素案を策定しましたので御協議をお願いしたいと存じます。市では、障がいのある人が必要なサービスを安心して受けられ、地域の一員として、ともに自分らしく暮らせる社会が実現できるよう取り組みを進めてまいります。

また、計画を推進していくためには、関係機関や市民の皆さんの御理解と御協力が欠かせませんので、委員の皆様のそれぞれのお立場から、ぜひ忌憚のない御意見をいただきますようお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○ 福祉課長

それでは3番の会議事項に入ります前に、本年度2回目の会議でございますが、前回御欠席された委員、また、本日代理で出席されている委員の皆様の自己紹介をお願いしたいと存じます。大変恐縮でございますが名簿の順によりまして、それぞれ順番に自己紹介をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

◆該当委員自己紹介

○ 福祉課長

続いて3番の会議事項に入りますが、慣例によりまして以降については、健康福祉部長が進行いたしますのでよろしくお願いいたします。

○ 健康福祉部長

それでは次第に沿いまして、会議事項に入ります。

(1) 計画策定のためのアンケート調査結果について
事務局より説明をお願いします。

(1) 計画策定のためのアンケート調査について 議題に供した。

○ 事務局

◆資料に沿って説明

○ 健康福祉部長

ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして御質問等ございますでしょうか。

○ 委員

回収率が37%ということで、これはどのように分析されておりますでしょうか。
回収率の低さについて事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

想定より少ない回収率でしたが、一定の数は集計が出来たと考えております。
次回以降については、全件調査など多くの方にアンケートの配布することを検討していきたいと思っております。

○ 委員

例えば、我が家にいただいたときに、65歳未満ではないんですけども、本人しかいないときに、これを読んで回答するということがとても難しい御家庭もあるので、やはりそれに対するケアとか、あるいは自宅に訪問して一緒にやるとか、何かそういうことがないと、なかなか回答率は上がらないんじゃないかと思います。読むことですらとても大変な方のところに届いた場合には、回収だけではなくて、回収前に、こんなものがあるということも分からずに、意見がいただけない。むしろそういう方たちの意見をどうやって集約、吸い上げていくかということもアンケートとあわせて考えていただければ大変ありがたいなと思います。

○ 福祉課長

前回よりもかなり回収率が低いということで、項目もかなり多いというところもあって今後配慮していかないといけないかと思います。あと、アンケートを郵送する数を増やさないといけないかということと、ウェブでの回答も併用しながら、また次回やっていければというふうに考えております。

○ 委員

ウェブの回答とか、ウェブを使うことが多くなっているんですけども、そのシステムがあるかどうか、もしない場合には、お貸しできる体制をとっていくか。回答する方の立場とか、状況を考えてやっぱりアンケートとして御意見いただくのが一番大事かなと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

○ 委員

次回への要望ですが、アンケートについて、障がい福祉計画と障害がい福祉計画の策定になると思うので、障がい児に特化したアンケートが必要ではないかと思いました。年齢幅は0歳から65歳までの方でアンケートをとっている様子は見えるのですが、障がいのある18歳以下のお子さんへの、別のアンケートが必要ではないかと思いますので、次回、そういったことも配慮していただければと思います。

○ 健康福祉部長

次に、（２）次期計画の目標値等について
事務局より説明をお願いします。

（２）次期計画の目標値等について を議題に供した。

○ 事務局

◆資料に沿って説明

○ 健康福祉部長

ただいまの説明に対しまして、皆様のほうから御意見御質問ございますでしょうか。

○ 委員

資料11ページのペアレントトレーニングの関係ですが、先ほど、自立支援協議会で、集まりの場があったということでの人数を上げたという説明だったかと思うんですけども、それが、このプログラム等の受講者のほうに入ってるのか、ピアサポートの活動の参加者数なのか。その下のピアサポートに近い内容かなと思ったのですが、いかがでしょうか。

○ 事務局

ペアレントメンターの方が3名いらっしゃって、お話をしてくれる場がありまして、そこに保護者の方が参加されたということがあったのでここに当てはまるかなと思ったのですが、再度検討してまいりたいと思います。

○ 健康福祉部長

ほかに皆様から御意見、御質問等ございますか。

○ 委員

成果目標などは、国の指針に準じて設定したというところではありますけど、後半の地域生活支援事業のところは市独自の目標を設定しているということで、アンケートの結果から何か、須坂市で取り組むべきことが抽出されたりとか、それに対しての、何か目標などは設定されたりはしないんでしょうか。

○ 事務局

アンケートに地域生活支援事業に関わるものが項目としてあまり含まれていなかったということもありまして、今回のアンケート結果を受けて、入れるということはないかと思います。

ただ、成年後見については、計画に入れているのは、申立ての支援、経済的な支援のことについてではありますが、関連する項目が一部ありましたが、アンケートの内容は特にこちらのほうには反映はしていない状況になります。

○ 委員

アンケートの中でサービスが複雑化していて内容が分からないとか、作業療法士を配置してほしいとか、そんな要望がありますが、その辺はこの目標には入れずに、計画が進んでいく中で、順次解決していくというような流れになるということでしょうか。

○ 事務局

そうですね。やはり、サービスの利用については、広報というものが主にはなってくると思うのですが、なかなか、サービスについては広く、多くの人に伝えるにはあまりにも情報量が多かったりしますし、市報など広報で掲載だとかそういった方法も考えられるんですが、人によって必要なサービスが全然違うということもありますので、広報の仕方はすごく、毎回悩んでいるところではあります。ただ、継続して、サービスの説明というのはかなり大事なことになりますので、また須高地域総合支援センターなどとも相談して検討していきたいと思います。

○ 委員

先ほどのアンケートの中に、災害時の避難等についても、かなり御不安を抱えていらっしゃる方の数字が多いようにお見受けしますが、その辺りちょっと私も、どこにその辺が盛り込まれるんだろうというところは存じ上げない。ちょっと今、場違いな質問かもしれないんですけども、今の私ども、事業所もBCPの策定等で、いろいろと本当に今、災害等も多くなってきていてその辺りを、かなり考えていかなきゃいけないところもあって、例えばこの今回の計画には、その辺りは盛り込まれないものなのか、逆にこのアンケートが、例えば危機管理みたいなどの課につながっていくのかどうかその辺、伺わせていただければと思います。

○ 福祉課長

確かにアンケートの中に災害時に不安という方はいらっしゃると思います。災害対策基本法も改正になりまして、避難情報が警戒レベル3になると、高齢者や障がい者が避難ということに今なっております。そういったこと等を周知してるところです。あと、障がいのある方や高齢の方については個別避難計画の策定を進めてるところで、昨年度から、須坂でいうと千曲川沿線の方の個別避難計画の策定を進めております。例えば、避難するときはどういった方が支援するかとか、どこに避難するかというのを、それぞれ個別に進めているところで、そこをこの計画に盛り込めるかどうかというところも、考えていきたいと思います。個別避難計画、何年度には何人というような形ができるか、その辺、検討したいと思います。

○ 委員

私どもも、やっぱりBCPを立てるに当たって、日中系の中小施設も、幾つかありますので、例えば在宅時だったら御家族の側にいるので、また違う対応になって

くるんですけども、通所時に何かあった場合にということも、いろいろとまた行政とも確認し合ったりしながらやっていかなきゃいけないなと本当に思いますので、また、そんな時間も行政と、法人とのまた何かこうすり合わせだったり、意見交換だったり、そんなところも、またお時間割いていただけたらありがたいなという思いもあります。

○ 福祉課長

障がいがある方はなかなか、体育館とかそういった避難所に避難するのが難しい方がいらっしゃると思います。須坂市では福祉避難所ということで、高齢者施設や障害者支援施設と協定を結ばせていただいて、そういったところに避難できるような体制を考えておりますので、また、打合せさせていただければありがたいと思っております。

○ 委員

私も法人も、何か御協力できることがあればということも考えておりますので、また、ぜひそんな時間もよろしく願いいたします。

○ 委員

12ページのところで自立支援協議会のところなんですが、自立支援協議会の部会の設置数が7部会と変わってないんですが、私の個人的な考えとしたら、自立支援協議会は非常に活発に活動はしていますが、やっぱり当事者の声を聞く機会があまりないなという感じで、やっぱり障がいのない人たち中心の部会になってしまってるんじゃないかなという懸念があります。というわけで、できれば、一つ新しい部会として当事者部会的なものをぜひ設置していただきたいなと思っています。

あともう1点よろしいでしょうか。14ページの、今年始めたみんなの福祉フェスティバルって、参加者が多いというふうに聞いてましたが、本当に啓蒙啓発に役に立ったのかどうかというのは個人的には参加させていただいて疑問で、やっぱり、本当に障がいのある方たちが地域で生活するために、どういう地域が必要なのかみたいなことを考えたときに、そういうことが啓蒙啓発できるような中身であっていただきたいなと思います。そういう意味では、例えば、これは思いつきで言っていますが、やっぱり社協さんが中心にやってるようなふれあい広場も、かなり、歴史の長い活動としてあるので、例えばそういうところとタイアップして、一緒になって須坂を盛り上げていくというようなそんな発想が、やっぱりあったほうがいいんじゃないかなというそんな気がしてますので、御検討いただきたいなと思います。

○ 事務局

まず、1点目の自立支援協議会の当事者部会の設置についてですが、この計画を立てる際に、小布施・高山の係長とも話をした中で、部会を増やす必要性や、当事者部会の話も少し出てきてはいたところですが、ただその話の中では、積極的にという話にはなりませんでしたが、当事者部会の設置については、3市町村と自立支援協議会できちんと検討をしてまいりたいと思います。

続いて啓蒙啓発の形については、実際に、福祉フェスティバルが実際どの程度の効果があったかというところではあります。こちらの開催の方法などについても、自立支援協議会で検討をしていきたいと思っています。

○ 委員

先ほど、障がい児に特化したアンケートというお話がありましたけれども、そこと

同様なことですが、多分このアンケート、年齢によっては保護者の意識がかなりあらわれてくるのかと思います。そこを考えたときに、保護者、お子さんを育てている方がどういうサービスを望んでいるのかというのも、また把握する必要があるかだと思います。私どもがそのあたりを大事にしていかなければいけないと思っています。その中で、10ページのところに、放課後等デイサービス、それから先ほど、4ページのところで、児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の充実の中で、須坂市内の事業所の強化というお話がありましたが、ぜひまたこれから検討していただきたいのは、須坂市の事業所が大変少ないという話が当事者の保護者の方から、あがっています。希望してしているんですけども、なかなか希望の事業所に行くことが出来なかったりっていうことで、事業所の招致っていう形で考えられないか、それには、やはりそのサービスが利用できるだけの福祉としての補助とかそういうのが必要で、補助が受けられる体制があるっていうことが増えるように関わることが重要だと考えます。ぜひまた、そのところを、考慮していただきながら、サービスについて考えていただければ大変ありがたいかなと思います。

こうやって数を増やしていただいて大変ありがたいなと思いますが、実は今年度、教育支援委員会と言って特別支援教育の必要なお子さんたちの審議をしている場への申込みが、去年の1.5倍です。今年審議しただけでも111名おります。特に今、保護者の方たちもお仕事をしながら放課後安心して仕事をつていう、思いがとても強いところにきておりますので、そのところでの必要な支援として、また考えていただければありがたいなということを思います。よろしくお願いいたします。

○ 事務局

放課後等デイサービスを始めた障がい児通所事業所については、やはり希望どおりの日数の利用が出来ないことですか、新しく入れないという話は、切実な保護者の思いとして私のほうも伺っております。

ただ実際に事業所を増やすということについて、おそらく最大のネックになっているのが、人材ではないかと私は考えております。児童発達管理責任者という一定の研修を受けた方がいないと、設立が出来ないものでありますので、折を見て、色々な法人に協力を働きかけていきたいとは考えております。

あと補助金というものになりますが、最終的にサービスが始まると、サービスの報酬で事業を運営していくことになるので、現時点では、特定の事業所に補助ということは考えてはいませんが、もし今後どうしても必要だということであれば各方面に確認をして、そういったものが設置できるかどうか、設置すべきかどうかを検討していきたいと思います。

○ 委員

私もその他で言おうかと思っていたんですが、政策に関しては本当にいいんですけども、須坂市社協も人材が、支援はさせていただきたいけれども、人材確保がとても難しい。

去年の春ぐらいに、移動支援をやる事業所が一つ撤退するので、須坂市社協でまた2名やっていただけないかって、今までやっていただけ事業所が撤退するということで、社協のほうでも受けさせていただきましたが、やっぱり受けるキャパを、須坂市と一緒に、社協も、職員が結構高齢化してきて、若い人の働き手が欲しいけれども来ない。職安にも、社協としても出しているってことは言っているんですが、須坂市の福祉で働く楽しいよっていうそういうなんでしょうね。そういう人材、学生向けに須坂市で働く楽しいよみたいな、何かそういうイベントが、利用者さんだけではなくて、ボランティアから始めて最終的には就職していただけたらみたいなそういう、何かイベントを、このさっきの啓発のところに盛り込むとか

していかないと、職員不足で受けたい方が受け入れられないという、ちょっと危機も感じています。

○ 福祉課長

そういう介護の人材というか高齢者の介護もそうだし、社協さんのそういった人材がかなり不足してる、ほかの事業所さんも多分そういったところあると思いますので、その辺須坂市の子どもたちなり学生なりに向けてとか、近隣の市町村の学生さんたちに向けてというようなことも何かできるものがあればやっていければいいのかなというふうに感じております。

○ 委員

実は毎年ですが、本協会では、会員を対象にした研修旅行を実施しております。日帰りなんですけど、大体、3,000円から4,000円の会費をもらってバス旅行をしていますが、その際に、聴覚障がいの方が当然参加されます。ということは手話通訳の方も、2名、ちょっと長時間になりますので当然2名になるんですけど、その際に、手話通訳の方には大変申し訳ないんですけども、通訳料か会費、どちらかを負担していただいて、片方は協会のほうで見るという形で、通訳の方に参加していただいております。

ほかにも研修会等がありますれば、手話通訳の方をお願いするんですけども、そういう形の中で通訳の方の分を補助してもらうような形を考えていただけないかなとこんなふうに思っているのですが、よろしくお願いします。

○ 事務局

手話通訳の派遣の申請をいただいて、須坂市から派遣をしているということですか。

○ 委員

そうですね、手話通訳の方をお願いして来ていただければ、やっぱり一人幾らという形で、お支払いしているんですけども、本来は、うちのほうとしては、通訳料を払って、それから、会費も、こっちから払うという形なんですけども、それをプラスマイナスなしにして。

○ 事務局

個人の方からの手話通訳派遣ということであれば、須坂市から通訳を派遣して謝礼を支払っていますが、団体主催というものについては謝礼の支払いはしていません。基本的には主催者側で負担をしていただくものにはなと思うんですけど、私も、具体的にどういうところで、どのぐらいお金がかかっているかというのを後日教えていただいて、何か助成できるかどうかを約束できるものではないですが、お話伺ってみましたので、また教えてください。今のは御要望ということですよ。

○ 委員

はい。

○ 委員

悠生寮は入所施設ということで、入所に関わるところで、ちょっと質問といいますか感想も含めてなんですけども、8ページの短期入所の、福祉型のところなんですけども、資料の2ですね。重度障がい者の利用ということで、①、②、③と例示していただきましたが、実際、強度行動障害の方の希望もあったりしてるわけなんです

が、我々の入所のほうの機能であったり、いろいろ、環境の整備等がちょっと追いつかないところもあって、十分な受入れが出来てないっていうのが、実際のところではあります。育豊さんとも連携しながら、こういった非常に地域で暮らすことが大変な方、困難な方については、やはり入所の施設が、まず、最終的になってことはないでしょうけども、セーフティーネットっていうことも含めて、受け入れを進めていくっていうことは、やはり考えてく必要があるということで、常日頃から、職員とも話はしてるところです。ただやはり、繰り返しになりますが、環境面の整備がどうしても必要になってきますし、あと入所されてる方との折り合いっていうのも当然出てきます。それからその支援をするための性能性というところが、なかなかやっぱり追いついていかない部分がありますので、そこはやはり今後入所施設に求められる機能ということで、高めていきたいなというふうに思うところです。

感想になりますけども、この②の高次脳機能障害のところのちょっと表の見方がよくわからないですけど、0人でなってるんですが、ここは数字が入らなくていいのかなというところなんですけども。実際、私どものところでも、受入実績があったり、つい先日も、市外の方とか御希望もあったりするんで、ここは必ずしも知的障がいの方が多い入所施設で、高次脳機能障害の方が、利用が適当かどうかっていうのはちょっと別問題であるんですけども、実際のそういう希望はあるので、ここは数値を入れてもらっていいのかなというふうに思っております。

○ 事務局

高次脳機能障害については、ケースワーカーに確認をして、今須坂で支給決定されてる方が2人いらっしゃいます。いずれもグループホームの利用と、B型の利用という方。生活介護が必要だっていうレベルの方ではちょっとなかったもので、実際の実績のほうには入れずに、今回のものを作成しております。ただ、先ほどお話をいただきましたので、見込みのほうには高次脳機能障害も追加をして、変更していきたいと思います。

○ 委員

アンケートの回答の中で、親亡き後の生活みたいな回答があったかと思います。私どもも悠生寮さんと一緒に入所施設を運営させていただいておまして、後々の私どもの課題の中で、利用者さんの高齢化が非常に顕著になっております。やはり、全国的にも高齢化と少子化みたいな問題はあがってるかと思います。そういったところで、やはり利用者さんの高齢化に対する、スキルアップみたいなところも、重要になっておりますし、あと、やはり先ほどの話題にも上がりました、なり手といえますか、こちらの業界に入ってくる、働き手みたいなところの、やっぱり人材不足っていうところもあるかと思います。やっぱり少子化となりますと、今後、さらに全国的にも労働人口が少なくなってくる。その中で、こちらの業界にどれだけ人材を確保できるか、そういったところが、課題になってくるかと思います。やはりこれから働き手になる方への、何か、この福祉の業界の魅力づくりみたいなところ、早急に作っていかなくちゃいけないんじゃないかなというふうに感じました。

○ 委員

先ほどアンケートの結果を見させてもらいましたが、やっぱり親の高齢化だったり、やっぱりアンケートって見て複雑だったりするとね、なかなか自分たちの声が出せないって部分もあるんじゃないかなと思ったりします。

制度もできたり施設も増えていきますけど、まだまだ親亡き後とか、将来の不安というのは拭えない。サービスが増えればまた手続きが大変だって、親御さんの声を聞きます。

先ほど災害の話も出ましたし、人材なんていう話も出たし、やっぱり課題が本当に、段々山積みになってきてるような気がします。一つの事業所だけではとても抱えきれない問題、社会の問題もありますので、須高地域の中で、自立支援協議会を含め、そういう話し合いの場が増えてくれば、それぞれの施設の特徴ありますので、協力し合いながら、地域の仲間たちや家族の支援というのを考えていけるんじゃないかなと思っております。

○ 委員

私たちも本当に親亡きあとどうしたらいいんだろうというのが一番今、どの家族にとっても家庭にとっても一番の問題なんですけれども、昨日ちょっと成年後見人の話を勉強させていただいたんですけれども、本当に総合支援センターのところに入ると、多分いろんな支援があったり手を貸してくれたりしてる人がいらっしゃることもなんですけど、成年後見のこともそうなんですけど、本当に何か成年後見制度って言われちゃうと大変難しい、お金がかかる、そういう感じでなかなか、知らないってことも非常にいけないことなんですけど、なるべく、市報でもどこでもいいんですけど、こういうことがあるんだよっていう発信をお願いしたいと思います。

○ 委員

今回もこのメンバーに家族会お三方いらっしゃいますけど、実は、私の会は、子供も大きくなって、年取ってきてますけども親も、当然ながら年取ってましてね。なかなか若手が集まらないということもあって、今年度いっぱい解散することを決めて、関係部署の皆様の一部、御挨拶したところです。今年度3月までは活動いたしますけど、そんなこともあって、こういう会議も恐らく出てこないことになりますし、どうやって親の声を届けたらいいんだろうなと思いました。例えばアンケートが、無作為に一部の方についていうことでしたけども、さっき案として出ていましたけど、全戸配布であれば、会に属してなくても、声が届くかと思いましたが、ぜひ、恐らく障がい者全員がいろんな会に入ってるとは限らないので、全戸に届くような方法をぜひ配慮いただければありがたいなと思いました。よろしくお願いします。

○ 委員

私たち民生委員も、地域の皆さんの、先ほどおっしゃってました見守り安心ネットワークの会議に出させていただきまして、地域の方が災害時に、何かあったときはすぐ駆けつけられるような、そういう体制を、市役所の方からお聞きしたり準備はしております。まだまだ力足りないところがありまして、こんなに社会福祉協議会の皆さんが一生懸命話し合ってくださってるのを初めてこちらで知ることができまして、民生委員としても、もう少し皆さんの協力になれるように、また、みんなで協力できるように頑張っていきたいと思っております。

○ 委員

今日いろいろちょっとお話の内容としては難しかったんですけれども、いろんな計画等いろいろ、今まで私参加したことがなくて、今回1回目2回目と参加してみているいろんな課題が山積みなんだということが分かりました。

聴覚障害者協会としまして、昔と今を比べると通訳派遣があったり、いろいろな福祉の方が御協力いただいて、とてもよくなってきたと思っています。ただ一つ問題としましては、防災についてですね、何か起きたときに聞こえない人たちがばらばら、いろんな場所にいて、すぐに通訳を派遣するのが難しかったりとか、近所の方とのかかわりというか、あと民生児童委員さんですとかに御協力いただいたり

とか、そういう御協力があればいいなというようなことを、以前に協会で話し合いました。何か起きたときどのようになるか分かりませんが、もうちょっと、これからきちんと考えていければ良いかなと思っています。御協力のほうよろしく願いいたします。

○ 健康福祉部長

皆様から本当にたくさんの御意見ちょうだいして、ありがとうございます。
では、4番の今後の予定について、事務局のほうからお願いします。

(4) 今後の予定について を議題に供した。

○ 福祉課長

今後の予定ということで、今回次期計画の目標値等について、御審議いただきました。

本日、いただいた御意見を反映できるところをまた反映させていただいて、1月に市民の皆さんに御意見いただくということで、市のホームページですとか、窓口などで、今回の計画の素案を周知させていただきまして、パブリックコメントということで募集をさせていただきます。委員の皆様にも素案をお送りさせていただいて、1月に3回目の会議ということで、当初1回目のときに話をさせていただいたんですが、3回目については書面の会議ということでさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○ 健康福祉部長

このような予定で、皆様の意見を反映できるところは計画に反映させていただくということでございます。それでは、議事のほう皆様の御協力で、進行することが出来ましてありがとうございます。それでは進行を、事務局へお返しします。お願いします。

○ 福祉課長

すいません。ちょっと時間をオーバーしてしまいましたが、皆さん、たくさんの御意見いただきましてありがとうございました。今回の計画に反映できるところ、また計画以外にも、本日の皆さんの御意見を市の施策に反映していきたいと考えておりますので、また、いろんな面で御協力いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございました。以上で第2回須坂市障害福祉施策推進懇話会を終了とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。